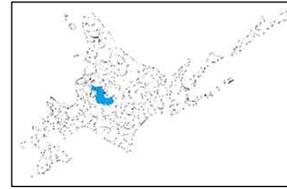


根室本線対策協議会

昭和56年3月3日設置



概要

JR北海道根室本線は滝川駅～根室駅まで北海道を縦断する長大な本線である。本協議会はそのうち、滝川～新得までの自治体で構成していたが、令和6年3月31日に富良野～新得間が廃線となったことで、現在では、滝川市・赤平市・芦別市・富良野市の4自治体で協議会を構成している。滝川駅～富良野駅間には9の駅があり、路線は54.6kmとなっている。令和7年3月のダイヤ改正をもって、東滝川駅の廃止が決定しており、駅数は8駅となる。

○JR北海道根室線(滝川～富良野間)の輸送密度及び収支

(2024年度4月～9月で記載)

- ・輸送密度 416人／日
- ・営業損益 △436百万円
- ・営業係数 723円

○JR北海道根室線(滝川～富良野間)の課題

- ・継続的な利用者の減少
- ・観光利用の低調及び観光資源の掘り起こし不足

○地域公共交通再構築調査事業の主な内容

- ・沿線住民へのモニター利用募集
- ・モニター利用者へのアンケート調査

○根室本線対策協議会開催状況

- 4月23日 第1回根室本線対策協議会幹事会
 - ・調査実証事業案について
- 7月4日 根室本線対策協議会総会
 - ・令和6年度事業について
- 2月5日 第2回根室本線対策協議会幹事会
 - ・調査実証事業の結果及び事業評価について
 - ・令和7年度事業について

JR北海道根室線の概要



●事業の結果概要

【根室線利用モニター事業】

◆モニター利用者募集

- ・滝川市・赤平市・芦別市・富良野市居住の成人を対象にモニターを募集
- ・800人を上限に募集し、414人の応募があった
- ・対象とした4自治体の中では、滝川市40%、赤平市17%、芦別市18%、富良野市25%の割合となっている
- ・応募方法は、webが92%となっており、次いでFax5%、ハガキが3%となっている

◆アンケート調査結果

- ・アンケートでは、利用した感想や利用者を増やすためにどうすべきかなどを聞き取りした
- ・アンケート対象数414件中、回答は288件(回収率69.6%)であった

結果:モニターの応募状況から、対象となっている4自治体の地域住民にとって全くの無関心ではないという状況を確認できた。

アンケート調査については、回収率が69.6%という比較的高い水準となり、関心の高さがうかがえる結果となった。

回答内容では、富良野から札幌までの直通便の常時運行の希望や車両の座席の改装、駅のバリアフリー化などの声がある。そのほかにも、乗り放題切符とイベントの連携や周辺施設等の情報発信の強化などが挙げられており、次年度以降の取組に活かしていきたい。

根室本線協議会 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の今後の改善点(特記事項含む)

【根室線利用モニター事業及びアンケート調査】

- ・モニター募集等においては、周知期間及び募集期間をもっと長く設定し、情報発信も一度にすべての媒体で発信せず、期間中に複数回に分けて発信し、埋もれない周知とするよう意識する必要がある
- ・そのためにも、情報発信する媒体を増やすことも検討する必要がある
- ・次年度以降に実施する事業については、この点を反省として活かしていきたい

●事業実施の適切性

事業は計画通り適切に実施されている

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は計画どおりに実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・目標に対しモニター応募者数が少ないため、今後、応募者数増加に効果的な周知方法等についてご検討いただくとともに、モニター募集の目的であるアンケート調査の回収率についても100%回収を目指して、モニターに回答を促す周知方法や回収率向上に資する取り組みをご検討いただきたい。
- ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。